

日本福祉大学「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)

持続可能な「ふくし社会」を担う「ふくし・マイスター」の養成

## COC ニュースレター



## 持続可能なふくし社会を創造する「ふくし・マイスター」の養成に向けて

本学は、平成26年度に採択を受けた文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)を継続し、「大学は地域の中へ、地域は大学の中へ」をコンセプトにして、地域連携教育と地域志向の研究と社会貢献を全学的に展開し、「持続可能な『ふくし社会』を担う『ふくし・マイスター』の養成」に取り組んでいます。

キャンパスを置く知多半島3市町(美浜町・半田市・東海市)の少子高齢化や地域活性化等の課題解決を通し、地域の多様な力が協働する持続可能な「ふくし社会」の構築を目指しています。

「ふくし」の視点をもって本学のCOC事業を展開し、「ふくし・マイスター」を養成・輩出することを通して、地域課題の解決や魅力あるまちづくりなど、地域に貢献していきます。さらに、「ふくし」を核とする持続可能な「知多半島モデル」を構築し、地域課題解決モデルとして他地域への波及を視野に入れています。

本学では、通学制の6学部と全学教育センターの地域連携教育により、市民力・ボランティア精神・リーダーシップを備え、「ふくし社会」を担う人財(人材)となる「ふくし・マイスター」を育成しています。1年生全員を対象とする「ふくしコミュニティプログラム」で地域への関心を高め、その後、学部と全学教育センターの地域志向科目を受講し、さらに実践的に、地域の理解、地域への働きかけ、多職種・多分野連携の学びを深めます。

研究・社会貢献の取組では、市民研究員制度の新設、地域連携推進拠点(Cラボ)の展開などを通じて、地域と大学の相互交流を促進しています。取組の成果は報告会で地域に還元するとともに、市民研究員の地域資源バンク(地域人材登録制度)への登録等により、地域連携教育の取組に活かしていきます。

## 全学でふくし・マイスターを養成するための地域連携教育と、研究・社会貢献を発展・展開



## ふくし・マイスター

「ふくし・マイスター」とは、地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して「身をもって」地域課題の解決に取り組むことができる人のことです。

## ふくしとは?

“ふだんのくらしのしあわせ”を意味します。従来の制度中心の「社会福祉」の枠を広げて、多領域が関連・連携しあう広い意味の福祉を平仮名で「ふくし」と表現しています。

## 地(知)の拠点大学による 地(知)の拠点 地方創成推進事業(COC+)がスタート

平成27年度文部科学省「地(知)の拠点大学による地方創成推進事業(COC+〈プラス〉)」に採択された岐阜大学の事業「岐阜でステップ×岐阜にプラス 地域志向産業リーダーの協働育成」の参加校として、このプログラムに参加しています。

岐阜県の地域と産業を知るためのフィールドスタディや、地元企業でインターンシップを行い、岐阜県への就職機会の創出を図るとともに、地域特性や産業を理解した就業支援の取組を行うための協働事業を展開します。



本学では、地域の課題を理解するとともに、生涯を通して地域と関わりながら暮らす市民としての基礎力、地域課題を見据える「ふくし」の視点を身に付け、ボランティア精神とリーダーシップを発揮して地域課題の解決に「身をもってあたる」ことができる「ふくし・マイスター」を養成しています。

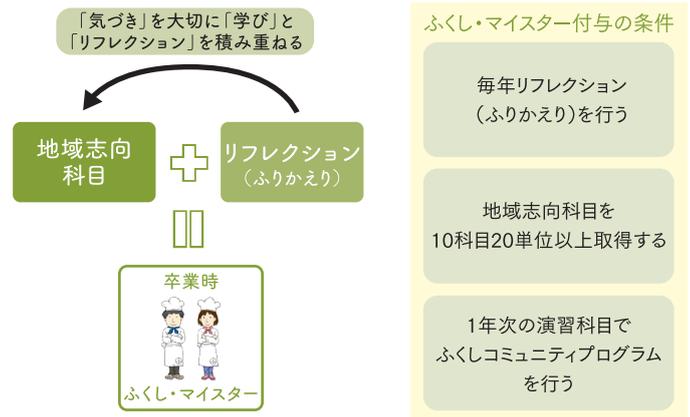
2015年度入学生より、新たな地域連携教育の取組として「ふくし・マイスターHANDBOOK」を全員に配布し、地域で学習活動をする際の導入教育を行うとともに、全学部の1年次必修科目や全員履修科目で「ふくしコミュニティプログラム」を実施しています。

このプログラムでは、①地域を知る、②地域を調べる、③地域と関わる、④学習を深める、⑤成果をまとめるの5つのステップで学習過程を体験し、「リフレクション」と呼ばれる学びのふりかえりを行うことにより、知識を定着させる取組を行っています。この「リフレクション」は、上級学年でも毎年度繰り返し行われ、ふくし・マイスター付与の条件のひとつとなっています。

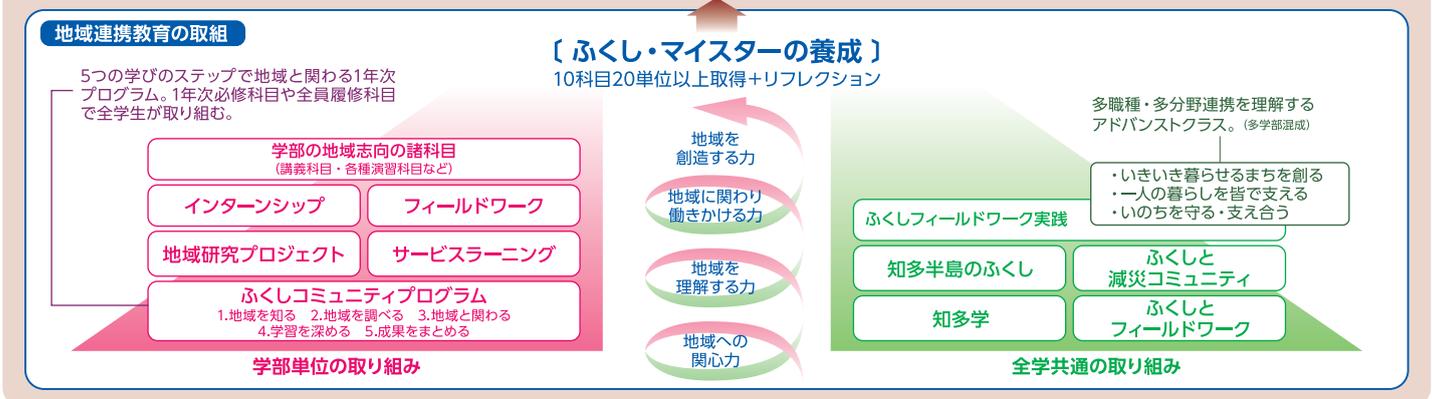
ふくし・マイスターの養成にあたっては、各学部の特色を示す地域志向科目を指定するとともに、全学教育センターにeラーニング科目「ふくしとフィールドワーク」(1年次)、「知多半島のふくし」「ふくしと減災コミュニティ」(2年次)を開講し、知多半島を題材とした地域特性等の知識を身につけた上で、3年次に多職種・多分野連携のあり方・役割について「ふくしフィールドワーク実践」において学びを進めます。これらの科目から、地域への関心、地域を理解する力、地域に関わり働きかける力、地域を創造する力を修得することができます。



ふくし・マイスター HANDBOOK



## 持続可能な「ふくし社会」=「知多半島モデル」の構築



### 健康科学部



2015年11月21日、半田キャンパスの健康科学部福祉工学科バリアフリーデザイン専修の1年生が「環境共生入門」の授業の一環で、奈良県にある「庭暮らし研究所」を訪問しました。研究所を主宰する畑 明宏さんから法隆寺と同じ工法の「伝統工法」の建築について話を聞き、あえて弱い土壁部分をつくることで結果として地震に強い家を作っているということを学びました。また、自給自足の暮らしの一部を体験するために薪割りや、原木しいたげづくりなどを通して、自然と共生しあいながら暮らす方法を学びました。

### 国際福祉開発学部

国際福祉開発学部の基礎演習では、ふくしコミュニティプログラムとして地域と関わる学習を行っており、活動を通して学習に必要なリテラシーを育てています。吉村輝彦教授のクラスでは、前期はグループに分かれてフィールドワークを実施し、後期にはグループごとに地域のマップづくりを行っています。学生の地域への関心も高まり、2015年8月20日、東海市主催のNPO現場見学バスツアーに、国際福祉開発学部1年生で韓国からの留学生 崔 炯根さんと、同じく1年生で東海市市民活動センターの市民活動アドバイザーを務める岸 玲司さんが参加し、東海市や知多市のNPOの取組について学びました。





美浜町、半田市、東海市の地域課題の解決に繋がる研究を支援する「市民研究員制度」(一般対象)および「地域課題解決型研究支援制度」(本学教員対象)を2015年度に立ち上げました。公募により採択された市民研究員および本学教員がそれぞれのテーマを設定して、1年間、地域課題の解決に向け研究活動に取り組んだ成果を地域に還元する場として、2016年2月11日に「2015年度市民研究員・地域課題解決型研究 研究成果合同報告会」を東海キャンパスにおいて開催しました。

行政、企業、社会福祉協議会、NPO、教育関係者など約80名が参加し、社会での実践・普及に繋げていく契機としました。

研究テーマ

市民研究員

- 知多地域におけるCSV経営のビジネスモデルの提案
- 知多半島の多様な地域資源をつなげ、地域課題に向き合う人材育成のプログラムを作る
- 他市町の事例から学ぶ「美浜流ファミリーサポート事業のあり方」について
- 子育て世代をターゲットとした地域活性化

地域課題解決型研究

- 住民・大学・行政の協働による空き家を活用した地域福祉活動に関する実践的研究—高齢者支え合い、子育て支援、防災・減災の活動を通して—
- ICT活用による教員と地域住民とともに作り上げる国際交流—グローバルな東海型都市づくりプランの構築—
- ファミリーホーム(小規模住居型児童養育事業)の地域支援に関する研究



地域と協働して、MIHAMA F-esを開催 [美浜町]

2015年10月18日美浜町総合体育館にて、「MIHAMA F-es～地域の魅力発掘市～」(主催:美浜町商工会青年部 共催:美浜町、日本福祉大学、美浜町商工会)が開催されました。「MIHAMA F-es」は、町の魅力を感じられる新たな機会を創出することを目指し、美浜町商工会青年部と美浜キャンパスの学生有志が中心となって企画し、今回初めて実施されたものです。

企画の目玉となったのは、美浜町の様々な職業の方が集まる商工会の特長を生かした子ども向けの職業体験です。長蛇の列ができるほど人気となり、学生は受付をしたり、並んでいる方を空いているコーナーに誘導したりと、機転を利かせたおもてなしの対応をしました。また、社会福祉学部の地域研究プロジェクトのひとつである「地域包括ケアにおける協働プロジェクト」が開発した、チームワークを体験できるゲームも披露されました。

学生発案による町内の福祉系NPOブースも盛況で、多くの方が車いすの体験などを楽しみました。その他、大学から災害ボランティアセンターや大道芸サークルなどが参加し、地域の方々との交流を深めました。



自治体との協働

COC事業で連携する自治体(美浜町、半田市、東海市)と地域課題別のワーキングを開催し、協働で行う取組について協議を行いました。2016年度より具体的な取組を開始していきます。

なお、同事業については、2014年に立ち上げた3市町の首長および本学学長をメンバーとする「日本福祉大学COC協議会」にて、毎年度、当該年度の事業評価と翌年度の事業計画の確認を行い、事業の改善を図っていきます。

美浜町

少子高齢化進行に伴う子育て支援や地域福祉の充実 防災・減災のしくみづくり

半田市

中心市街地の地域活性化 地域包括ケアシステムの構築

東海市

中心市街地の活性化 多様な地域づくりの課題に応える地域デザインの構築

2015年7月に「半田市と学校法人日本福祉大学との防災・減災まちづくり推進に関する協定」を締結しました。



## 市民との協働

### 東海市「東海市地域大円卓会議」

東海市出身の儒学者である細井平洲の「学思行」(学び、考え、実行する)を実践する市民参加の場として、多世代が協働して地域に対する思いを応援することを目的に2015年11月27日に東海市地域大円卓会議が開催されました。80名が参加し、7名の多彩なプレゼンター(夢を語る人)から順番に地域に対する思いや夢が語られた後、その夢に共感した参加者たちがテーブルに集い、どうすればその夢を実現できるかについて議論しました。この取組は、市民活動の中間支援に取り組むNPO法人の代表や市民有志、東海市に居を構える2大学の教職員が中心となり企画したものです。当日は、両大学生も多数参加し、若者が積極的にまちづくり関わっていく機会の創出に繋がりました。



地域は学生の力を必要としているということを感じました。また今回、大勢の方の前で自分の夢を話したことで、自分が目指す「学生の活躍できるまちにしたい!」という思いを再認識することができました。

プレゼンター 経済学部3年 入山拓己さん



### 半田市「知多半田駅前地域円卓会議」

2ヶ月に一度開催する知多半田駅前地域円卓会議は、若い世代を中心に盛り上がりが増しており、まちの活性化に対する期待感が高まっています。2016年1月には「市政懇談会 in 知多半田駅前地域円卓会議」を開催し、地元の高校生・大学生を中心に90名もの参加がありました。社会福祉学部の学生がスピーカーとして発言し、「誰もが住みやすいまち」「住みやすいまちにするため若者ができること」について話し合いました。



### ファシリテーター養成講座

地域円卓会議などでファシリテーターを担う人材育成のため、全学教育センターの佐藤大介助教が講師を務め、ファシリテーター養成講座を開催しました(5回の連続講座)。高校生から社会人まで幅広い年代の方々約25名が受講し、ディスカッションやロールプレイングを用いて人間関係を体験的に学ぶことにより、ファシリテーターの目的や役割を理解する場となりました。

## Cラボ

2015年度にCラボ半田、東海を新たに開設し、地域連携コーディネータが大学と地域との架け橋となり、交流活動のサポートを行っています。 Cラボホームページ <http://www.n-fukushi.ac.jp/c-lab>



### Cラボ美浜



美浜町:美浜キャンパス内

### Cラボ半田



半田市:クラシティ3階

### Cラボ東海



東海市:ソラト太田川3階



### 日本福祉大学 COC事業推進本部

愛知県知多郡美浜町奥田会下前35番6 教育開発課

TEL 0569-87-2214 FAX 0569-87-2273 <http://www.n-fukushi.ac.jp/coc>

